



▲収穫した梅を選別機でふるいにかけて、傷がある梅を取り除く参加者

梅まつりで地域活性化

宮内地区の坂本梅林で、宮内地区活性化委員会主催による地域活性化のための平成24年度宮内梅まつりが開催されました

●歴史ある梅の木の梅をちぎる
6月10日（日）上揚の坂本梅林および宮内集会所で、平成24年度宮内梅まつりが開催されました。

宮内地区活性化委員会（境国副会長）が主催。同委員会のメンバーのほか、町内住民、甲佐小学校（本田尚一校長185人）の児童や教諭などを含めた約70人が参加しました。

坂本梅林は、昭和11年ごろ、当時の宮内小学校の校長だった坂本壽雄氏が、児童の農業実習のために梅を植樹したのが始まり。早朝から集まった参加者たちは、鈴なりに実った梅をバケツいっぱい収穫しました。

●自然の恵みを地域の活性化に
ちぎった梅は、集会所に集めて選別。選別機でふるいにかけて、葉や茎などを取り除いた



▲ちぎった梅を興味深そうに眺める子ども



▲きれいに色づいた梅をどっさり収穫

りした後、子どもたちが重さを量りながら袋に詰めました。
選別作業の途中から、梅の購入希望者が選別会場に続々と来場。ちぎりとての梅を見定めて購入しました。

今年は何年に比べ2週間程度収穫を遅らせたこともあり、実はやや大きめで、黄色や赤などに熟した梅が多く採れました。全体で、約540kgを収穫しました。

宮内地区の60歳代の男性は、「収穫した梅の一部は、宮内の特産品である梅ジャムに加工して販売します。今年の梅は熟しているため、ジャム作りに最適です」と笑顔。自然の恵みを地域活性化に活用しています。

また、梅まつりに参加した60歳代の仁田子区の夫婦は、「孫を連れて、今年初めて参加しました。ぜひ梅を買って帰りたいです」と話しました。